

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会  
第 57 回 システム安全専門部会 議事録

1. 日 時：2021年11月9日（火）13：00～16：15

2. 会議方式：Web 会議＋原子力学会会議室

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員）岡本部長，鬼沢副部長，鈴木幹事，青木，阿部，井村，大川，尾家，河村，北島，木藤，工藤，後藤，杉野，中川，中村（途中参加），深野，松本（途中退室），宮地（19名）

（欠席委員）室屋（1名）

（委員候補者）大谷 司（電源開発），益田 真之介（東北電力）（2名）

（常時参加者）小澤（1名）

（説明者）【PLM 分科会】中川幹事，伊藤常時参加者

【長期運転体系検討タスク】村上主査，中川幹事，伊藤・倉本常時参加者

【BWR 熱流動評価分科会】工藤主査，中川幹事

【統合的安全性向上分科会】松本副主査，倉本幹事

【システム安全専門部会】鈴木幹事

【水化学管理分科会】杉野委員（延べ12名）

（事務局）大沼，牧野，正岡（3名）

4. 配付資料

STC57-00	第57回システム安全専門部会議事次第（案）
STC57-01	第56回システム安全専門部会議事録（案）
STC57-02	人事について
STC57-03-1	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）” 標準改定原案に関する当専門部会決議投票の結果について
STC57-03-2	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）” 標準改定原案に関する当専門部会決議投票での保留意見への対応について
STC57-03-3	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）” 標準改定原案に関する当専門部会決議投票で受け付けた意見への対応について
STC57-03-4	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）” 標準委員会本報告案
STC57-03-5	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）” 標準原案
STC57-04-1	長期運転体系化タスクの次のフェーズについて
STC57-04-2	長期運転体系検討タスクのフェーズ2の提案
STC57-05	“BWRの核熱水力安定性評価基準：2021” 標準制定後の修正について
STC57-06	“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：2019” の英訳版作成について（中間報告）
STC57-07-1	システム安全専門部会 標準策定5か年計画（2022年度版案）
STC57-07-2	標準アンケートへの対応
STC57-07-3	新知見情報の確認
STC57-08	2022年春の年会（3/16-18，神戸大 or オンライン）企画セッション提案書
STC57-09	第57回システム安全専門部会（11/9）倫理教育受講状況フォロー表
STC57-10-1	標準委員会審議細則
STC57-10-2	標準誤記載対応ガイドライン
STC57-11	分科会活動状況

## 参考資料

- STC57-参考1 システム安全専門部会委員名簿
- STC57-参考2 システム安全専門部会出席実績
- STC57-参考3 倫理教育の議論
- STC57-参考4 システム安全専門部会 標準策定5か年計画（2022年度版案）
- STC57-参考5 標準アンケートへの対応
- STC57-参考6 新知見情報の確認
- STC57-参考7 時間領域安定性標準作業会名簿

## 5. 議事内容

事務局から開始時、委員20名中18名が出席しており、成立に必要な定足数（14名以上）を満足している旨が報告された。

### (1) 前回議事録（案）の確認（STC57-01）

前回議事録（案）について、事前に配付されていたファイルは作成途中の状態とみられ確認できないと連絡したが、その後の確認がなかったと指摘があった。配布の議事録案も報告・審議の内容が具体的に記載されていないと指摘があった。必要な記載を加えて再確認となった。

### (2) 人事（STC57-02）

事務局からSTC57-02に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、委員の退任等が確認され、審議の結果、委員の選任等が決議された。

## 1. 決議事項

### (1) 委員選任

大谷 司	電源開発
益田 真之介	東北電力

### (2) 委員再任

中川 信幸	原子力エンジニアリング	2022.03～2024.02
-------	-------------	-----------------

## 2. 確認事項

### (1) 委員退任

鎌田 信也	原子力安全推進協会	2021.10.14
-------	-----------	------------

## 【分科会】

### ○PLM分科会

#### 1. 承認決議事項

##### (1) 委員選任

高尾 俊匡	東京電力ホールディングス
-------	--------------

#### 2. 確認事項

##### (1) 委員退任

門間 健介	東京電力ホールディングス	2021.10.12
-------	--------------	------------

### ○統合的安全性向上分科会

#### 1. 確認事項

##### (1) 常時参加者登録解除

古舘 淳光	東北電力	2021.10.07
-------	------	------------

##### (2) 常時参加者登録承認

中村 啓幸	関西電力
真安 正明	東北電力

○統計的安全評価手法標準分科会

1. 確認事項

(1) 委員所属変更

三輪 修一郎 北海道大学 → 東京大学 2021. 10. 01

(2) 常時参加者所属変更

片山 正晶 MHI NSエンジニアリング → 三菱重工業 2021. 04. 01

○シビアアクシデントマネジメント分科会

1. 確認事項

(1) 幹事退任

鎌田 信也 原子力安全推進協会 2021. 10. 14

(2) 幹事指名

益田 真之介 東北電力

(3) 代表者退任

鎌田 信也 原子力安全推進協会 2021. 10. 14

(4) 代表者選任

益田 真之介 東北電力

(3) 【報告・審議】(STC57-03-1～STC57-03-5)

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補1）”標準改定原案に関する当専門部会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について

（担当：事務局，PLM分科会 中川幹事，松藤委員，伊藤常時参加者）

事務局からSTC56-03-1に基づき，題記標準改定原案に関する決議投票の結果，1名の意見付き保留があり，投票期間内に解消されなかったため可決されなかったことが報告された。引き続きPLM分科会 中川幹事，伊藤常時参加者からSTC57-03-2～STC57-03-5に基づき，保留意見への対応の結果，及びその他の受け付けた意見への対応について報告があり，保留意見提出者が賛成に転じた上で審議を行った結果，改定原案が可決され，次回標準委員会に本報告することが決議された。

(4) 【報告・審議】(STC57-04-1, STC57-04-2)

長期運転体系検討タスクの次フェーズについて

（担当：検討タスク 村上主査，中川幹事，伊藤常時参加者，倉本常時参加者）

検討タスク 村上主査からSTC57-04-1, STC57-04-2に基づき，タスク次フェーズに関する標準委員会報告結果の報告と，その標準委員会報告で方針が了承されたタスク次フェーズ立ち上げの提案があり，審議の結果，提案のとおりタスクのフェーズ2を進めることが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

C：タスクの目的や実施内容を考慮すると，システム安全専門部会で受けるのではなく規格類協議会や標準委員会の下に設置すべき。ATENAが参画しないと情報が取り出せない。メンバーにリスク専門部会や機械学会がおらず，体制に不足を感じる。

A：あまり時間はかけられず，小回りが利くのでシステム安全専門部会の下で実施したタスクの継続案件として実施したい。

C：60年，80年運転に向けてATENAとも強調して，問題意識をまとめてほしい。レポートをスピード感を持って作ってほしい。

(5) 【報告・審議】(STC57-05)

“BWRの核熱水力安定性評価基準：2021”標準制定後の修正について

（担当：BWR熱流動評価分科会 工藤主査，中村幹事）

BWR熱流動評価分科会 工藤主査，中村幹事からSTC57-05に基づき，題記標準制定後の転載許諾に伴う修正について報告があり，審議の結果，次回標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

C：著作権者からのコメントに従う修正であることが分かるような説明文とすること。

Q：文献の細かな情報を削除した修正箇所があるが、情報が不足することはないか？

A：それぞれの図のタイトルから参考文献を引用しており、参考文献リストには十分な情報の記載があるため、情報が不足することは無いと考えている。

(6) 【報告・審議】 (STC57-06)

“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：2019”の英訳版作成について

(担当：統合的安全性向上分科会 松本副主査，倉本幹事)

統合的安全性向上分科会 松本副主査，倉本幹事から STC57-06 に基づき，題記実施基準の英訳版作成について報告され，審議の結果，次回標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：今後実施するという別の検討グループでのクロスチェックの方法は。

A：これまでの検討においては，分科会メンバーで分担して担当箇所を決めて実施してきたものを，他の箇所をチェックするというを行う予定である。

C：我が国のリスク指標や許容基準の考え方を海外に発信することとなり，英訳版の重要性は高い。次回専門部会での最終報告をお願いする。

(7) 【報告】 (口頭説明)

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：2021”及び“統計的安全評価の実施基準：202X”標準制定後の修正について

(担当：事務局)

事務局から口頭で，題記標準については制定・発行が承認されていたが，その後修正が入り，前回の標準委員会(9月1日開催)にて再度審議が行われ，制定後の修正が編集上のものであることが確認され，再制定・再発行が決議された旨の報告があった。

(8) 【報告】 (口頭説明)

“発電用軽水型原子炉の炉心及び燃料の安全設計に関する報告書”(技術レポート)改定について

(担当：事務局)

事務局から口頭で，題記技術レポートについて，前回の標準委員会(9月1日開催)にて審議が行われ，制定後の修正が編集上のものであることが確認され，制定・発行が決議された旨の報告があった。

(9) 【報告】 (STC57-07-1～STC57-07-3, STC57-参考4～STC57-参考6)

標準策定5か年計画の更新について

1. 標準策定5か年計画の工程表
2. 標準アンケートへの対応
3. 新知見情報の確認

(担当：システム安全専門部会 鈴木幹事)

システム安全専門部会 鈴木幹事から STC57-07-1～STC57-07-3, STC57-参考4～参考6に基づき，標準策定5か年計画を2022年度版に更新する説明があった。年内には修正等を仕上げ，年明けには専門部会内で記載内容の確認を行い完成させられるよう各分科会への更新要請があった。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

C：国内外の関連動向に，規制委員会が検討している「1F事故の調査・分析に係る中間とりまとめ」の知見も参考情報として記載することも考えられる。

C：OECD/NEAの福島第一原子力発電所事故10年報告書も考えられる。社会学の視点にも言及されている。

C：この場ですぐに確認することは難しいので，年明けに専門部会内で確認するようにする。それまでに関連動向などの必要な記載を検討すること。

C：講習会，国際会議なども忘れずに見直すこと。3月制定までには時間があるので，新知見の検討も十分に行うこと。

(10) 【報告】 (STC57-08)

原子力学会 2022 春の年会水化学部会企画セッション  
「水化学管理指針の概要とフォローアップについて」

(担当：水化学管理分科会 杉野委員)

水化学管理分科会 杉野委員から STC57-08 に基づき、題記について報告され、審議の結果、タイトルを適切なものに変更したうえで、次回標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

C：セッションタイトルに「フォローアップ」と書かれているが、フォローアップは標準委員会の仕事であり、水化学部会が主催であれば「標準の活用事例と意見聴取」などとしてはどうか。また講演タイトルにも「改定」と書かれているが、改定も標準委員会の仕事なので、水化学部会として適切なタイトルとすべき。

(11) 【報告】 (STC57-09)

システム安全専門部会倫理教育の受講実績

(担当：システム安全専門部会 鈴木幹事)

システム安全専門部会 鈴木幹事から STC57-09 に基づき、専門部会委員は 21 名全員受講であると報告された。今回の会議で委員選任が決議された益田委員は、既に分科会で自習済みであると申し出があった。大谷委員も機会を見つけて受講してほしいとの依頼があった。また、分科会は倫理教育を計画して受講実績と御意見のまとめを連絡するよう指示があった。

(12) 【報告】 (STC57-10-1, STC57-10-2)

標準委員会審議細則、標準誤記載対応ガイドラインの改定について

(担当：事務局)

事務局から STC57-10-1, STC57-10-2 に基づき“標準委員会審議細則”については、標準の正誤表の管理強化のため、“標準作成ガイドライン”については、標準の原稿（電子データ）の確実な管理のため改定し、前回の標準委員会（9 月 1 日開催）で改定が承認された旨の報告があった。審議細則にある“標準委員会の審議の役割、審議すべき事項”に正誤表の確認が追加されたので、これを報告する際は注意するように指示があった。

(13) 【報告】 (STC57-11)

分科会活動状況について

(担当：各分科会代表者等の関係者)

終了予定時刻を超過したため、岡本部長から STC57-11 に基づき、各分科会の活動状況について報告された。標準制定後の状況を確認したところ、転載許諾の手続きで滞っている例、分科会と事務局との情報授受の再確認が必要な例があった。また、BWR 熱流動評価分科会が時間領域安定性標準作業会の人事を承認したことを追記するように指示があった。

6 その他

・阿部委員より、「東京大学・日本原子力研究開発機構ジョイントワークショップ（2022 年 3 月 11 日予定）」への、システム安全専門部会及び炉心燃料分科会の協賛について、口頭でお願いがあった。

協賛については、理事会報告案件であるが、専門部会での協賛可否の審議は、開催までの時間ないため後日メール審議することになり、協賛手続きについては、事務局で確認することになった。

・次回は、2022 年 2 月 2 日（水）13：00 からの開催に決定した。

・次々回の開催は 2022 年 5 月 11 日（水）予定。

以上